

伊勢原支部ニュース

第380号 2026年 3月15日
3月10日現勢 組合員数112名
発行 伊勢原市高森4-8-9 蠣崎邦男
責任者 電話0463-95-4098

年金者 しんぶん

全日本年金者組合中央本部
郵便番号170-0005 東京都豊島区
南大塚1-60-20 天翔大塚駅前ビル
電話03(5978)2751
FAX03(5978)2777
昭和57年6月30日第三種郵便物認可

高裁判決26/2/25(水)に! 12/22(月)『差戻し高裁第2回目』

今回の審理は早目(午前9時30分)からの参集なので、7時30分発のバス、電車乗り継ぎで、東京高裁前に向かった。かなりの皆さんが参集、予定時間に門前集会。県本部委員長あいさつに始まり原告団長・弁護団代表・支援団体あいさつなど続き、証人である伊藤周平教授のあいさつと続き、傍聴希望者の抽選となった。

たまたま小田原の予定者が遅れていたの自分分がその権利を譲ってもらい、入廷。前回と同様一番前の席に、10時30分から開廷、今回も裁判官の声はつきり聞こえました。今回は、神奈川の弁護士3名が中心となり、まず高橋宏弁護士が今回の最大の争点積立方式からの国民あるいは国会の論議を得ることなく賦課方式にすり替えたことを論を尽くして話す。次に弁護団事務局長高橋由美さんが準備書面に基つき年金の流れを訴えられ、次に井上啓弁護士がパワーポイントを使い、伊藤周平証人への質疑応答が行われました。財政方式と



生存権との関連、伊藤周平証人から、年金財政の数々の変遷の流れの中で重大な給付の劣化が進んでいることが明確に指摘された。1時間半の審議終了後、裁判長より今回の判決が冒頭の日時でと告げられ、終了となった。さあどのような判決か期待したい。

全日本年金者組合伊勢原支部長 蠣崎 邦男

エッセイコーナー

九一歳になる長兄はひとりぼっちになった。ふたりの子供は家を出て久しい。義姉は腰が曲がり、認知症になり老人施設に入ってしまった。コンバインも田植機もさびついて倉庫にうち捨てられたままかえりみる者はいない。

長兄の選択

入浴のあるデイサービスをまわりはすめたが、家を離れたくないと強く頭を横たふる。ガンコものだ。ひとりぼっちに

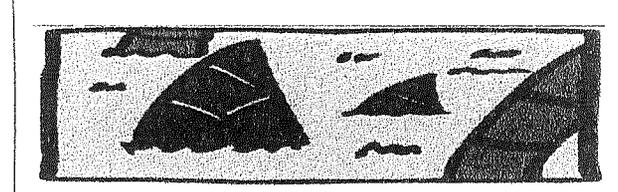


杖をついての歩きはおぼつかない。トイレもままならぬ。毎日ヘルパーさんになった長兄はそれでも子供からのひと声を楽しみにしている。義姉の帰りを待ちのぞんでいる。覚悟をもった長兄の選択、それもあらかとと思う。

西脇三千夫

受給日宣伝行動のお知らせ

- ①2026年4月15日(水) 午前10:15~11:00 雨天中止(各自の判断で)
- ②伊勢原駅南口 いせはらcoma前
- ③マイク宣伝、署名集め、チラシ配布 短時間の参加、様子見で署名する方大歓迎です



国策によって翻弄された国民、私は今でも戦争責任を曖昧にしない。

宮脇ひろみ



語り部の2人の息子さんは、お母さんの思いを十分に理解し、あの戦争の責任を自国ではまだ総括していないと憤っていました。また、実名を出すのを拒んでいた女性は、孫娘から「勇気ある行動、尊敬します」と言われ、表情がやっとうれしくなりました。

神奈川県海老名母親大会に参加して「黒川の女たち」が訴えるもの
ドキュメンタリー映画「黒川の女たち」を見ました。80年前の戦時下、国策により満州の地に岐阜県から渡った黒川開拓団。日本の敗戦で多くの開拓団が占領された中国人に逆襲されたり、進行してきたソ連軍に命を奪われたりと地獄のような状態となったのです。
この時、黒川開拓団は生きて日本に帰るため、敵のソ連軍に18才以上の未婚の女性15人に性接待させ、自分たちを助けてもらった。帰国後、女性たちを待っていたのはねざらいではなく差別と偏見の目、誹謗中傷。この事件は長らく伏せられていました。しかし、女性たちは「なかつたことにしたくない」「自分たちの尊厳を回復したい」と、2013年満蒙開拓記念館で2人の女性が、性暴力にあつたことを語り始めました。
語り部の2人の息子さんは、お母さんの思いを十分に理解し、あの戦争の責任を自国ではまだ総括していないと憤っていました。また、実名を出すのを拒んでいた女性は、孫娘から「勇気ある行動、尊敬します」と言われ、表情がやっとうれしくなりました。

